

多様な世代の 従業員が働く 職場の課題



ベビーブーム世代

1946年～1964年

X世代

1965年～1980年

ミレニアル世代

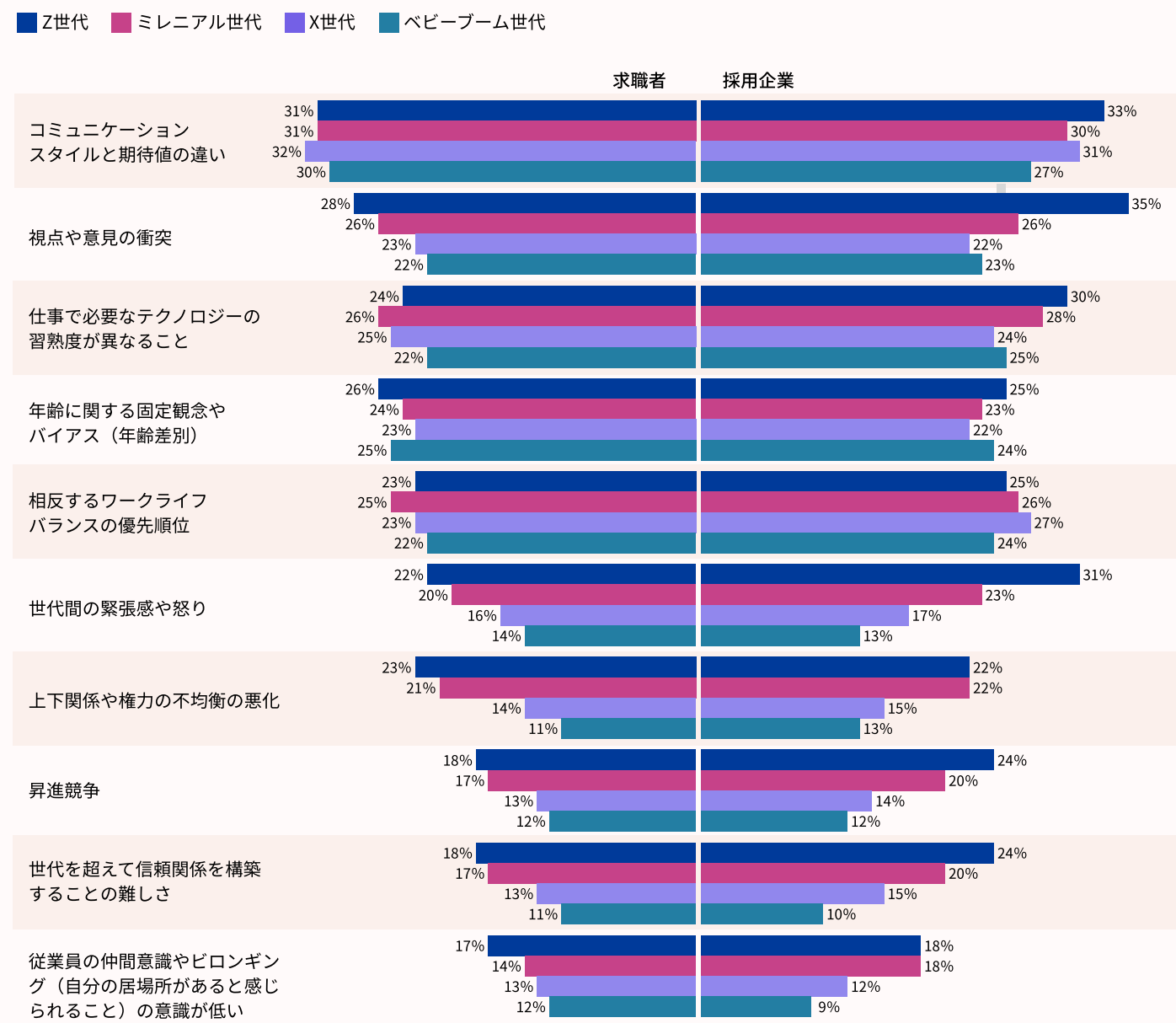
1981年～1996年

Z世代

1997年～2012年

Indeed が実施したグローバル調査では、多様な世代の従業員がいることに対して求職者と採用企業が持つ意見や経験がおおむね一致し、その中でコミュニケーションスタイルと期待値が最大の課題として挙げられました。しかし、年齢を雇用とキャリアアップの障壁と捉えるかという点についての見解は、求職者と採用企業とで異なっていることがわかりました。ベビーブーム世代とX世代の求職者は、年齢は大きな障壁であると回答しましたが、採用企業は、年齢は重要な要因ではないと回答しました。

求職者と採用企業は、多様な世代の従業員がいることの最大の課題は何だと考えていますか？¹



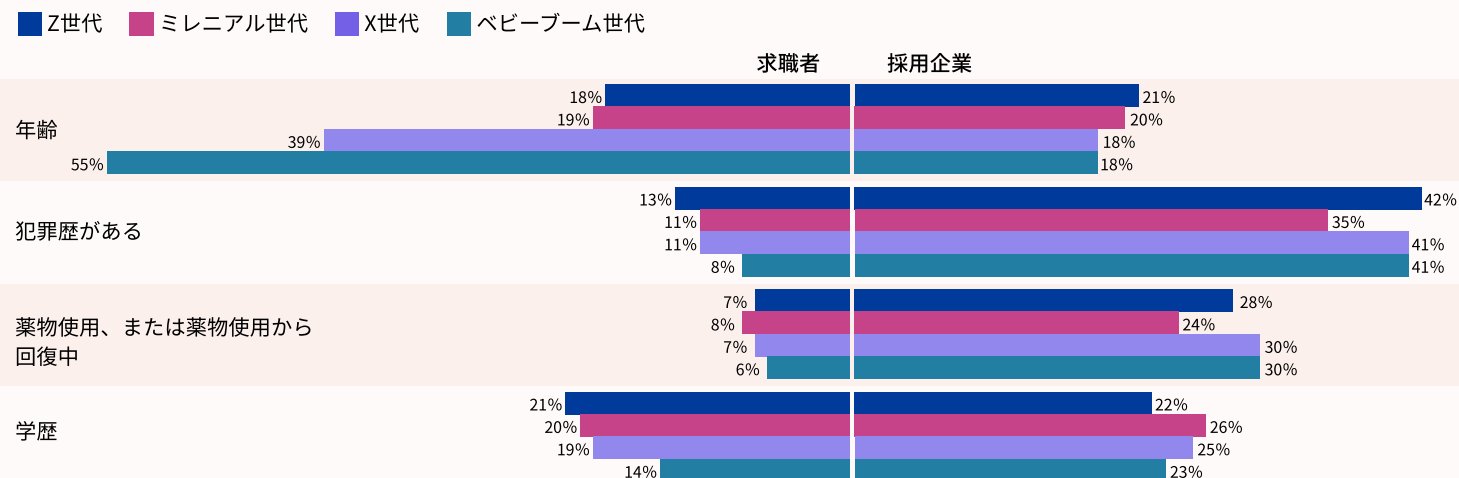
全回答者の約3分の1が、世代間でのコミュニケーションスタイルや期待値の違いは、多様な世代が混在する企業が直面する最大の課題になったと答えています。この質問で唯一の例外となったのはZ世代の採用企業で、視点や意見の衝突が大きな問題であると35%が回答しています。

そうした世代間の緊張感や怒りは、誤解につながる場合もあります。たとえば、年齢の高い世代は、Zoom通話でカメラをオフにする若い同僚はやる気がないと考えるかもしれません。しかし、Deloitteによると、Z世代の労働者の半数以上は給料ぎりぎりの生活をしており、住居費を節約するためにルームメイトと同居することが多いそうです。² 寝室から会議に参加しているのを同僚に見られるのが恥ずかしいのかもしれません。コミュニケーションスタイルについてのよくある思い込みを考え直すと、誤解による対立を減らせる場合があります。

だからといって、企業が若い従業員のコミュニケーションスタイルに対応するために、職場の規範を捨て去る必要はありません。ただ、企業が若い従業員を自社の規範に順応させる（または、企業が従業員のスタイルに合わせる）ことについて、より意識的に取り組む必要があるでしょう。

質問：以下のうち、多様な世代の従業員がいることで生じていると思う主な課題はありますか？当てはまるものをすべて選択してください。

求職者と採用企業は、就業する上での最大の障壁は何だと考えていますか？¹



求職者は、年齢が仕事探しを阻む主な障害であり、昇給や昇進を受ける上で最大の障壁であると考えています。年齢が高い回答者ほど、年齢によって機会が限られると感じる傾向が高くなります。しかし、採用企業は、年齢をそれほど大きな障壁であるとは考えていません。採用企業が採用、昇進、昇給に際して最大の障壁であると考えられる可能性が高いのは、犯罪歴です。

求職者への質問：希望する仕事に就く上で障壁になると思う要因があるとしたら、それはどれですか？当てはまるものをすべて選択してください。

採用企業への質問：求人への応募を妨げると思う要因があるとしたら、それはどれですか？当てはまるものをすべて選択してください。

出典

1 YouGovの協力による2024年の Indeed 調査、合計N=9,219人の求職者と4,839社の採用企業

2 Deloitte Global 2024 Gen Z and Millennial Survey

この文書の著作権は Indeed, Inc. に帰属します。Indeed の書面による同意なしに、この文書の全部または一部を使用、改変、複製、再送信および再発表することは明示的に禁止されています。Indeed はこの文書に含まれる情報の使用もしくは適用、またはそれらの解釈によるいかなる責任も負いません。Copyright © 2025, Indeed, Inc. All rights reserved.